

厚沢部町における国内研修 報告レポート

今回一週間の厚沢部町内での福祉研修は研修参加生が2名でしたが、少数であったことが功を奏し、非常に濃い内容のものだったと思います。まず、厚沢部町についてですが、道南の檜山郡に属し面積は横浜市程ながら人口が4400人、高齢化率は40パーセントに近く若い年代の都会への流出から起こる典型的な過疎地で、広い土地を生かした農業を主体としている町でした。ジャガイモの一種であるメークインの発祥の地で、そのほかにもアスパラガスやヤマゴボウなども多く栽培しています。数年前に町長が変わって以来、地域おこし協力隊を誘致し、法政大学を含むいくつかの大学から研修生やゼミ合宿を受け入るなど町おこしに積極的に取り組んでいました。初日と2日目の午前には厚沢部町役場が主催している「いきがいデイサービス」の一環である、音楽療法を見学、体験しました。1日10名ほどの高齢者の方々と一緒に歌を歌い、楽器を演奏するもので曲は主に参加者になじみの深い曲がほとんどで、その目的は音楽を楽しみながら認知症や嚥下能力の低下の予防をすることであり、音楽療法士の長原さんの明るい性格も相まって音楽教室としてとても親しまれていました。私は臨床心理士を志向していますが、音楽療法にとっても興味を持っていました。主としてその対象に年齢を問わない事、心理療法の場面以外でも活かせるという事が強みであると感じていましたが、長原さんの音楽療法士としての活動内容は私の理想像に近く、見学した音楽教室以外にも老人ホームや小学校に訪問するなど、非常に多くの人を対象として音楽療法を行い、訪問した各地から高い評価を得ているとの事でした。また長原さんは臨床心理士の資格は持っていませんが、地域おこし協力隊の一員として高齢者の在宅訪問も行っているとのことでした。協力隊の在宅訪問に関しては3日目の午前に隊員の今泉さんが行っている、これも町役場が主体で動いている高齢者の方の町に対する不安や役場にやって欲しいこと等を聴いたり、緊急時の連絡先を聴いたりするための在宅訪問に同行しました。こちらは所謂アポなしでの訪問のため同行した際には家にいなかったりお断りされたりすることが多く午前中実際にお話を聞いたのは、ひと夫婦だけでした。極めて地道であるものの、より質の高い福祉を実現させるために町民のニーズを明らかにするためのこの在宅訪問はとても重要であると感じました。私は以前から過疎少子高齢化が進む地域では孤独死を防ぐためにも在宅訪問は必要であると思ってはいましたが、実際に同行して、大雪の被害を受ける地域においては特に重要であることを再確認したと共にこの活動を継続し、かつ調査結果を実際に反映していくことがいかに大変かということを感じることが出来ました。私たちが研修を行った1週間、厚沢部町は快晴続きで車を走らせるのに雪の弊害が少なく移動もスムーズに行われました。しかし厚沢部も道南に位置するとはいえ大雪で吹雪になることも多く、雪かきが必要な所でもやる人が実際に

居ないために半孤立状態になってしまうこともあるようです。役場の方に伺ったところ、厚沢部町では役場の方でも精力的に雪かきを行っているとのことその成果も有り、公道は常に危険の少ない様になっていると協力隊の方も仰っていましたがやはり、大通りから一本外れた道や、私有地までは手が届いていないのが現状のであると思えました。

このほかにも、言語聴覚士の方の在宅訪問の仕事に同行したり、音楽教室と同じいきがいデイサービスの一環であるさわやか教室の見学、参加をしたり、老人ホームの見学をしたりなど、様々な福祉活動を実際に見ることが出来たことは自分の経験として強く残って行くと思います。しかし私が今回の研修で一番強く印象に残ったのは、研修内容の部分ではなく研修の間を縫って厚沢部町で生活するいろんな方とお話が出来たことです。今回厚沢部に行くきっかけになった川合さんからは協力隊の目指すところは厚沢部の再興であるが、日本全体でみても少子高齢化、人口減少が加速し課題としてあげられる中で、過疎地域に若者を呼びこみ人口増加を実現するという事は極めて難しいために、高齢者の方への福祉事業を厚くして人口減少をいかに緩やかにしていくかということに重きが置かれていると教えていただきました。なぜ地域おこし協力隊に入り活動することを決めたのかという質問に対しては、この町は自然も豊かで、地方独特の人の温かさが有り、何か面白そうなお話が出来そうだからとお話を頂き想像以上に単純かつ明快な理由に驚きました。川合さんをはじめ協力隊の方々、音楽療法士の長原さんを除いた7人がみんな都会から厚沢部町に入ってきた人でそれぞれが違う経路で厚沢部を知り、違う目的ながら自分が気に入ったこの厚沢部という町をいかに良くするかということをよく考えておられました。しかしその共通点はやはり自分に合ってそうだからや楽しそうだから原動力となっていることと、厚沢部に骨を埋める決意で来ている点でした。その決意の強さと行動力にはとても感銘を受けました。他にも、厚沢部町の教育長の方とお話することが出来ました。周りの人からは、教育長とそのままの肩書で呼ばれているものの堅苦しきはなく非常に気さくで、川合さんがこの町で一番フットワークの軽い人と評するように素晴らしい行動力を持つ方でした。というのも、今回研修に行った私たちが臨床心理学科であることを伝えると、今度児童系の心理学の先生に来てもらって講義をしてほしいと思うんだけど、と話をもちかけられ、教育の現場における臨床心理の重要性を私たちの聞きかじりのような意見にもしっかりと耳を傾けて下さいました。都会において教育長と呼ばれる立場の人とフェアに話し合いをすることはまず考えにくいことですが、厚沢部町ほどの小さいコミュニティになるところもフランクに話せるものかと思ったと同時に、自分が行政のトップに立つような人は高圧的であると強い偏見を持っていたことに気が付きました。次に印象深いのがゆいまーる厚沢部という介護付き有料老人ホームを訪問したときにお会いした、老人ホームのハウス長と呼ばれる方のお話でした。ゆいまーるは株式会社コミュニティネットという会社が運営している介護付き老人ホームで公営の特別養護老人ホームとは大きく異なるシステムを持っています。スタッフによる一方的な介護ではなく助け合いの精神の下、入居している高齢者同士がお互いを助けながら共に生活していき、その中で必要に応じて介護士の

手助けを入れるという基本スタンスの下、入居者は一人一部屋トイレもついているという一見老人ホームには見えない作りでした。ハウス長の話では、誰しも死ぬときは自分の家が一番良い。しかし家族で面倒を見きれなくなったときに、ゆいまーるにやってくる。であれば、自宅に帰れるように訓練をするのはもちろん大事であるがそれだけではなく、何らかの事情で家には帰れないままに死んでいく方にも、ここでなら、という気持ちになってもらう必要もあるとのことでした。他の日に研修の一環で特養を訪問したときそのホーム長は、家族に迷惑を掛けず、老いにあらがうことなく静かに後生を過ごすのを良しとする方ももちろんその一理あるようには感じましたが、ゆいまーるのような小さいがとても温かいコミュニティの中で過ごすことはとても効果的な事だと感じました。私の文では伝わらない部分が多くありますが、現代の老人ホームはこうあるべきだということを見たように感じました。他にも、廃校を間借りして車いす工房を開き、難病と闘う人のためにオーダーメイドの車いすを作る職人の方や、協力隊を厚沢部に誘致した厚沢部観光協会の方、厚沢部に来て、景色のいいところに自ら店を建ててカレー屋を営むご主人など、とても個性的で、都会で多くの経験をしたうえで厚沢部に定住している人たちにお会いしお話を聞くことが出来ました。今回の研修では、音楽療法と地域おこしというテーマで向かいましたが、向かった先は個性的で前向きな大人たちと昔ながらの人情味を持った高齢者の方々が元気に生活している場所で、福祉の勉強は勿論のこと、自分自身の視野が広がり、人間的に成長することが出来たように思います。